

既存の大学院である教育学研究科・経済学研究科では、他大学との連携や、データサイエンス研究科との協力体制を整えた授業などを展開し、さらに専門性の高い教育を行っています。また、社会人となっても学び続けられるサポート制度も充実しています。

経済学研究科

山田 和代 教授(経済学研究科副研究科長)

グローバルな視点や高い専門能力をもち 国際社会で活躍できる職業人を養成。

経済学研究科は、彦根高等商業学校の歴史を継承する本学において、1955年に発足し、現在は博士前期課程(修士号の取得)と博士後期課程(博士号の取得)を設けて、研究者の養成のみならず高度専門職業人の養成をも目的としています。

本研究科の特徴の一つである「高度専門職業人」とは、グローバルな視点や高度な専門能力を有しつつ活躍できる経済人ですが、その姿は地域社会ではもちろん、世界を駆けまわる現代の近江商人を彷彿させるのではないのでしょうか。また、多くの国々から留学生がきていることも院生同士で国際社会へと視野を広げられ、研究をするうえで良い機会となっています。

教育研究においては、前期課程では3専攻(経済学専攻、経営学専攻、グローバル・ファイナンス専攻)を設け、院生は主指導教員・副指導教員の研究支援体制の下で経済学、経営学、金融・ファイナンスについての専門知識の習得と自身の課題研究に取り組みます。一方、後期課程では経済経営リスク専攻においてリスク理論、リスク管理、リスクと創造について高度な専門知識を学びながら応用力を養い、複数教員指導体制の下で厳しくも充実した研究生生活を経て学位論文の完成をめざします。現在、本研究科では、データサイエンス研究科のスタートに合わせ、文理融合型の履修カリキュラム体制をさらに進展させる予定です。

Topics

データサイエンス研究科と連携した教育を実践しています。

経済学研究科では経済学とデータサイエンスとの文理融合型の教育として、すでにデータサイエンス関連科目を設け、所定単位を修得することでデータサイエンスモデル修了の認定制度を行っています。(「大学院経済学研究科履修案内」参照)

社会人となっても安心して
学び続けられる制度を整えています。

社会人院生も在学する経済学研究科では、「長期履修学生制度」を設けて就学環境の充実を図っています。この制度は授業料の総額を変更することなく、標準修業年限(前期課程は2年)をたとえば3年、4年へと延長して学ぶことができます。(「学生募集要項」参照)

